

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100021		
法人名	文化タクシー株式会社		
事業所名	スマートホーム・パティオ(グループホーム)		
所在地	釜石市小佐野町2丁目3番39号		
自己評価作成日	平成25年5月31日	評価結果市町村受理日	平成25年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0391100021-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一昨年の東日本大震災にて受け入れた避難利用者の円満退所支援に取り組み、現在超過1名となり、関係機関協働のうえ引き続き被災者等のこれからへの善処に努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所の理念を「笑顔と思いやりでみんなの中に和」としている。利用者は、午睡、就寝以外はほとんどホールで過ごしており、利用者も職員も笑顔と、笑い声が絶えない。
 ・事業所は住宅地に立地し、駐車場(中庭)『中に和』は、事業所名のパティオの意の中庭を表わしている。)が通路として活用され、近所の方々や小中学校生の登下校の姿にふれることが出来る。また、駐車場は子供達が遊んだり、ラジオ体操の場となっており、地域に自然に溶け込んでいる。
 ・職員の意見を大事にし、退職金制度、資格取得時昇給等の処遇改善を実施している。
 ・職場環境に関しては、入浴介助による腰痛予防のためリフト浴槽を設置している。また、緊急時、2階からの避難誘導を職員が一人に対応できる機器を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の実践者研修の取り組み題材としての理念考察をスタッフ全員で協力して作り上げた理念で、毎朝のミーティングでの呼称とホール掲示により共有しながら実践につなげている。	理念は、職員全員で話し合い定めている。毎朝のミーティング時に呼称している。ホールに掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会会員となっている。住宅地に立地し、職員にも近所の住人多く、野菜等のおすそ分けがあったり、ご近所付き合いもしている。	事業所の駐車場は通路となっており、住民が出入りし、保育園の散歩コース、子供達の通学路や遊び場になっている。小学校の運動会に参加している。地域の防災の会議に参加し、緊急避難マップを作成したり、地域とは、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の見学が開設以来続くうえ、震災避難者との共同生活も経て、認知症ケアの実際を見て頂きながら、認知症理解の一助となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ、現状の理解を得たうえでご意見いただき、サービス向上への実効を目指している。	会議は2か月に1回の開催を予定している。警察や消防署の方を委員にお願いすることについては、駐在所員も消防署員(消防署はホームの向かい)も時折訪問してくれているので、その際相談指導を受けていることから、委員はそのままとした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課へのほぼ毎週の事務連絡から協力関係が継続され、また近所の生活応援センターなる支所的機関とは、地域や仮設住宅の高齢者ケアにおいて連携が図られている。	市役所に、関係機関の連絡箱が設置してあり、ほぼ毎日窓口に顔を出し、担当課職員に声を掛けている。地域の生活応援センターとは、高齢者ケアや仮設住民の小規模利用で連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書におけるサービス内容にて身体拘束を行わない旨具体的に盛っており、職員研修でも毎年取り組むこととしている。	年間の職員研修計画に「身体拘束」についても組み込んでいる。例えば、「言葉や態度による拘束・虐待」というテーマで、職員が講師となり、具体的な事例で研修している。センサーマットを1名ベッド脇に置いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の区分、定義や事例を学び、見過ごすことないように留意しており、職員研修でも毎年取り組むこととしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見人研修を受講済みで、独居であった利用者等には普段から必要性の検討に留意し、職員研修でも取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点の解消には必要な分時間を掛けて、またご理解頂ければ改めて何度も説明の上、納得頂いてから契約であったり改定の同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会を通じて意見・要望を承り、スタッフ間で話し合いながら施設運営に反映させている。運営推進会議に利用者及び家族の参加を得ている。	面会は、土・日が多いが、毎日来られる方もいる。家族から、わがまま言わせないでくれとか、たばこの本数を減らしてくれというような要望もある。推進会議に、意見はあまりないが、利用者と家族も参加している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も参加する、日々の申し送りやミーティング、毎月のスタッフ研修会等にて職員は率直な意見・提案を述べる機会があり、反映されている。	日々の申し送りやミーティングに、管理者も参加している。職員から、退職金制度、資格取得、勤務年数に応じた昇給等処遇についての提案があり、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格・能力に応じた手当の支給等就業規則や給与規定に沿った労務管理に努め、個々の勤務状況の把握や希望休日の受付等環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験に応じて実践者研修を順番に履修し、毎月の職場研修や外部研修への参加も積極的に機会設け、また資格取得に向けた研修参加への休日取得も優先配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	震災被災した市内施設からの避難者受入の経緯から、利用者・職員の相互訪問や復興に向けた移管業務等で同業者とは厚い連携がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の自宅であったり病院や施設での様子を伺いに複数回また実地に赴く職員も複数訪問のうえ要望等に耳を傾け、チームケアの安心感を事前に創出するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、サービスの内容を出来るだけ分かり易く説明し、見学も重ねて頂いており、また家庭的な雰囲気から家族が相談しやすい環境を醸成するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入後も前任担当のケアマネや入居前の利用サービス事業所等と情報交換に努め、現行サービスの是非やニーズの検討を繰り返している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で利用者一人ひとりが出来ることやその人らしい個性を發揮して頂いて、共同生活の時間の経過も味方にして互いに理解しあって支えあえるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時は、居室でゆっくり過ごして頂いたり、日頃の連絡・相談を介して共に支援方法を考え、外出や通院の支援も協働できる関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者も歓迎して出来るだけ来所頂けるよう勧め、馴染みの理美容店利用や外出の折々にドライブがてら思い出の場所をめぐる等努めている。	グループホーム(2階)と小規模ホーム(1階)の利用者の交流がある。開設当初から、月1回理容師が来ている。また、馴染みの美容院に家族が連れて行く方もある。買物や思い出の場所巡り等では、運転手だった方が、必ず助手席に座っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	迷惑行為が多い利用者も分け隔てなく、利用者同士がもめてしまうことも恐れず、互いに理解や認めてもらいあえる雰囲気の醸成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所からの震災避難利用者には、復旧後も交流を継続、また移管利用者については、環境変化を少なくするよう情報提供惜しまず事業所間協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段皆の中では話さない利用者も、入浴時やドライブの際等、時・場所・雰囲気・会話の場面を変えて聞き出す等工夫し、意向を確認するよう努めている。	現在は、日々の関わりで、気付いたこと、確認したことを、ケース記録に自由に記録し、ケアプラン作成、変更に反映している。今後、利用者を担当制にし、職員とゆっくり過ごす時間を作り、意思疎通を図りたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報にとらわれず、日々継続して普段の会話から情報収集するほか、家族の面会を通じてこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフノート活用から、日々の変化の情報を共有し、食事メニューや福祉用具活用等でも細やかな対応を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常のケア、家族との連絡・相談及び担当者会議やモニタリングを基に介護計画を作成している。またケアプランについて職場研修している。	日々の関わりの中で本人から把握した事柄、家族の希望、申し送りノート等を基に、担当者会議で検討し介護計画を作成している。職員は、全員で、外部研修で学んだライフサポートワークの考え方を意識し、介護計画を検討作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とスタッフノートの活用及び毎日のミーティングからスタッフ皆で情報を共有し、ケアの改善を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族支援のほかにスタッフ支援によって外食や外出に出かけたりして、また併設の小規模多機能型との連携で通い送迎への利用者の同行から誘いの声掛けに協力して頂いたりしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅から継続しての近所付き合い方々面会に来て頂き、また昔からのかかりつけ医師の訪問診療や往診等協力頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス導入以前からのかかりつけ医とのつながりをそのまま尊重し、またかかりつけ以外の医療機関についても本人希望や症状に合わせて家族と調整や連絡を取りながら受診適っている。	8名の利用者は入居前のかかりつけ医で、2名は協力医を主治医としている。3名の利用者は訪問診療を受けている。通院は家族の同行が原則であるが、家族の都合がつかない場合は、職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職との情報共有、通院介助や主治医、薬局含めた各関係医療機関とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の見舞いのほか医師、担当看護師やMSW等面談・相談しており、小規模多機能型併設のことから日頃退院者の利用調整・情報交換等からも連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	近い将来の重度化が想定される方々の主治医や協力医療機関と相談しながら、本人・家族への説明等また職場内及び外部における重度化、終末期及び看取り等についてスタッフ研修を図り、布石としている。	ターミナルケア(終末期)及び看取りに関する指針を作成している。他の介護施設で看取りを経験している職員はいるが、当事業所では対応した事例はない。職員研修のテーマとして取り入れ、継続して勉強している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な消防避難訓練のほか、救急救命講習の受講や職場における非常緊急時の対応等研修会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災経験から近隣施設との連携・協力関係を築いており、また119受理する消防署が隣でもあり、施設現況の理解を得て職員一同分かり易い指導を頂いている。	消防署立ち会いの避難訓練を、年2回実施している。近所には、「大きなベルが鳴りますが、避難訓練です。」と事前に伝えている。推進会議の委員、数百メートル離れている本社からタクシー運転手や、地域の消防団員も参加している。震災の経験から、食糧、日用品等整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症状によるその人の世界、言動を理解するように努め、矢庭に否定することをせず、人格の尊重に心掛けている。	難聴の方とのプライバシーにかかわる会話は、ホールではなく、居室で行うようにしている。排泄の誘導は、「そろそろです、お手伝いしますよ」と声掛けしている。また、おむつ置き場は、人目に触れないよう配慮をしている。乾燥室があり、下着等洗濯物は人目にふれることはない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を話しやすい雰囲気作りに努め、行事等への参加、着衣選び、食べたいメニューや外出先等自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理な強要となることなく、普段と違った体調や気持ちの状況に合わせて、入浴機会や食事の場所・時間、刻み具合等もその人のペースを大切に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や理美容、化粧品好み、男性であれば髭剃りの仕方等その人らしく出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかゆ・刻み・トロミ対応や箸かスプーンか、かかる時間等も本人のその時々のペースに合わせ、職員も一緒に食事をとり、後片付けも出来る範囲で利用者と共にしている。	嗜好調査で食べられないとしたものが、皆と食事すること食べられるようになったり、本人のペースに合わせることで、刻みやお粥が減って普通食を食べるようになってきている。パティオのテーブルで食事をしたり、バーベキューをしたり楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理担当にかかわらず職員が栄養・調理研修に順次参加し、健康管理を基として一人ひとりの状態に応じた食事、また効率よく水分補給できるよう好みに応じた飲み物の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の往診あり、また震災をきっかけに岩手県歯科医師会の口腔ケアボランティア支援あって意識が高まり、習慣化できている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェック表を基に必要な方へは時間毎のトイレ誘導、また個別の尿意サインを見逃さないようにしてトイレでの排泄支援に努めている。	トイレでの排泄を支援している。トイレに誘導し、介助したら、排泄が終わるまでトイレから出て待っている。トイレは鍵が取り付けられてあり、プライバシーを守る。排泄チェック表を職員で検討し作成した。記号を使用し、状態がわかるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・散歩、活動を通して離床・運動機会を多くし、一人ひとりの便秘解消の経験・希望も尊重して食べ物や飲み物も自主的に摂って頂けるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に消極的な方が多いが、個別に工夫して誘い、また予定した入浴日にとられず本人が気の向いた時やチャンスを見逃さず、また排泄汚染時等臨機に入浴対応している。	入浴は週2回を予定しているが、何時でも使用出来るようになっている。夜を希望された利用者には、夜の入浴を支援していたが、他の利用者が昼入浴しており、自然に昼入浴するようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	震災時に相部屋に慣れたり、居室よりホールで就寝の方が安心される方もいて、その人それぞれの落ち着く場所があり、尊重して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬種をファイル管理し、看護職主体に職員皆で把握しながら、専用の薬局から日頃の配達適い、情報交換し、主治医の診断に資する服薬支援・確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯や台所仕事等日常で一人ひとりに合わせた役割を担って頂き、また日頃塗り絵、花や野菜のプランター作り等趣味活動に楽しんで頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族や地域の要望に沿って、日常の散歩や時節の花見、紅葉狩り、墓参り等のほか震災後の復興見物にドライブに出かけたり、併設小規模の送迎に同行したりしている。	家族や親族の誘いで外出する方もいる。家族と通院のついでに外食したり、買い物したりする方もいる。花見、紅葉、墓参等季節折々にドライブを楽しんでいる。併設している小規模の利用者の送迎車に乗り、運転気分を味わっている方もいる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の金庫と現金管理表を基に小口を出納管理し、毎月家族報告しているが、財布を持出して自由に買物して来る方、同行して支払い支援する方、好みを聞いて買物代行する方それぞれに応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持込んで自由に通話している方もおり、家族等相手の意向を踏まえながら本人希望に合わせていつでも電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「普通」で落ち着く雰囲気心がけてはいるが、入居者の作った絵等を壁に飾ったり、季節感を出す七夕の笹やクリスマスツリー等生木を持込んで飾ったりしている。	笹に飾った七夕の短冊をホールの壁に飾っていた。食卓には、家族や職員が持ってきた花を小さな花瓶にいけている。天気の良い時は、パティオ(中庭)に出て寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは、テーブルについて皆とゲーム等するもいいしソファで一人テレビを見るのもよく、また小上がりの畳でおしゃべりや昼寝してもいいような造りになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の思い出の写真や仏壇等持込む方もあり、なるべく長年住んだ環境を崩さない配慮を家族にも理解して頂いて入居している。	居室は、クローゼットとベッドが備え付けてある。仏壇、位牌、遺影を置いているかたもいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	併設小規模多機能との交流多く、エレベータも設置してあるが階段利用を運動兼ての利用が日毎多くなっていて、波型手すりが有効活用されて安全を創出している。		